

古事記 弐
2016年12月15日

原文： 岩波文庫 古事記

現代語訳： 岸本陸一 （素人が古事記を普通に読む試み。多分日本人なら誰でも読めるはず。中国語の知識は必要。）

別天つ神五柱

天地初發之時、於高天原成神名、天之御中主神（訓高下天、云阿麻。下效此）次高御産巢日神、次神産巢日神。此三柱神者、並獨神成坐而、隱身也。

次、國稚如浮脂而久羅下那州多陀用幣流之時（流字以上十字以音）、如葦牙、因萌騰之物而成神名、宇摩志阿斯訶備比古遲神此神名以音、次天之常立神。（訓常云登許、訓立云多知）。此二柱神亦、獨神成坐而、隱身也。

上件五柱神者、別天神。

天地が初めて開けた時、高天原にあらわれた神の名はアメノミナカヌシの神（原文：天はアマと読む）（岩波文庫：麻をメと読んでいるが、不自然？）、次にタカミムスヒの神、次にカミムスヒの神。この三柱の神は独神（男女一対の神ではない）であり、身を隠した。

次に、国はまだ若く水の上に油が浮いているようで、クラゲが漂っているような時（流より前の10字は仮名文字）、葦の芽が萌えあがるようにして生まれた神の名は、ウマシアシカビヒコジの神（葦の芽を神格化して成長力を表す。男性）、次にアメノトコタチの神（天の根源神）（常はトコと読む、立はタチと読む）、この二柱もまた独神であり、身を隠した。

以上五柱は特別な天の神。

古事記の冒頭でいきなり音（仮名）が現れます。日本語の音を漢字の音を借りて、意味は無視して表記。久羅下那州多陀用幣流 = クラゲなすただよへる
稗田阿禮の口述を漢文にすることは不適切と考え、仮名表記としました。中国でも外来語に適当な感じをあてはめていますので、漢字文化圏では一般的な手法だと思います。

原文中の注釈をここでは（）で表していますが、実際には本文の1/4くらいの小さな字で書かれています。読み方を間違わないように丁寧にルビが振られています。まだ仮名がないので「ふりがな」ではなく「ふり漢字」です。

神世七代

次成神名、國之常立神（訓常立亦如上）、次豊雲上野神。此二柱神亦、獨神成坐而、隱身也。

次の神は、クニノトコタチの神、次にトヨクモノの神。この二柱も独神で、身を隠した。

次成神名、宇比地邇上神、次妹須比智邇去神。（此二神名以音）、次角杵神、次妹活杵神。（二柱）、

次意富斗能地神、次妹大斗乃辨神（此二神名亦以音）、次於母陀流神、次妹阿夜上訶志古泥神（此二神名皆以音）、次伊邪那岐神、次妹伊邪那美神。（此二神名亦以音如上）

次の神はウヒヂコの神、次にイモスヒヂコの神、次にツノグヒの神、次にイモイクグヒの神、オホトノヂの神、イモオホトノベの神。次にオモダル神、次にオモアヤカシコネの神、次にイザナキの神、次にイモイザナミの神。

上件、自國之常立神以下伊邪那美神以前、并稱神世七代。（上二柱獨神、各云一代。次雙十神、各合二神云一代也）

注：クニトコタチの神からイザナミの神までを神代七代という。独神はそれぞれ一代、それ以降は二神を合わせて一代という。